

レジデントプログラム ■ 内視鏡科（消化管）

§ 推奨するコース

●レジデント3年コース

対象者	新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※基本領域専門医:内科専門医、外科専門医
研修目的	・ 消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本的な知識・技能を習得する ・ 専門医取得：日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会専門医、日本カプセル内視鏡学会専門医 ・ 国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者 ・ 臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組む
研修内容	・ 1年目初期および2年目前半から3年目に消化管内視鏡科を研修する ・ 各臓器（食道・胃・大腸）の術前内視鏡検査を実施し、カンファレンスを担当する ・ 合計100例以上のESD術者経験および2-3本の英語論文作成を目指す ・ ローターション期間（18ヶ月以下）では、病理科（6ヶ月以上）・放射線診断科など診断部門および内科部門が選択可能であり、ローテーション先の診療科での学会発表・論文作成も可能である ・ 検診センターでの高度なスクリーニング消化管内視鏡技術の習得を目指す研修も可能である
研修期間	3年間 ※病院の規定に基づきCCM勤務を行う
研修の特色	・ 消化器内視鏡を中心に幅広い診療経験を積むことが可能 ・ スーパーエキスパートの検査・治療を数多く見ることができ、直接指導を受けることができる ・ 内視鏡の基礎となる病理科での研修が可能 ・ 国内および国際学会、多くの研究会、JCOGをはじめとする様々な班会議に参加可能 ・ スタッフが定期的に、研究の進捗や学会発表・論文作成をチェック・指導する ・ とても国際的である。年間100人以上の外国人医師が当科を見学・研修しており、カンファレンスも英語で行われる。臨床現場でも英語が常に飛び交っている ・ 成績優秀かつ人間的にも優れている医師はがん専門修練医コース(チーフレジデント)に推薦

●がん専門修練医コース（消化器内視鏡専門医・指導医コース）

対象者	・ 新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)、かつ、サブスペシャリティ領域専門医取得済み、もしくは取得見込みで、当院での研修により当該領域に特化した修練を目指す者 ※サブスペシャリティ領域専門医:消化器内視鏡専門医 ・ 当センターレジデント修了者あるいは同等の経験と学識を有する者
研修目的	・ 消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の高度な知識、技能を習得する ・ 専門医取得：日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会専門医、日本カプセル内視鏡学会専門医 ・ 国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者 ・ 臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組む
研修内容	・ 2年間、消化器内視鏡科に特化して、より高度な内視鏡診断・治療を研修する ・ 各臓器（食道・胃・大腸）の術前内視鏡検査を実施し、カンファレンスを担当する ・ 合計150例以上のESD術者経験および3-4本の英語論文作成を目指す ・ 検診センターでの高度なスクリーニング消化管内視鏡技術の習得と、内視鏡検診に関する研究を行う研修も可能である
研修期間	2年間
研修の特色	・ 基本的な消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の経験と実績を有する医師を対象とし、将来のリーダーを育成する ・ スーパーエキスパートの検査・治療を数多く見ることができ、直接指導を受けることができる ・ 国内および国際学会、多くの研究会、JCOGをはじめとする様々な班会議に参加可能 ・ スタッフが定期的に、研究の進捗や学会発表・論文作成をチェック・指導する ・ とても国際的である。年間100人以上の外国人医師が当科を見学・研修しており、カンファレンスも英語で行われる。臨床現場でも英語が常に飛び交っている ・ 当院職員の海外派遣制度を利用した海外留学も可能である ・ 研修修了後は、地域がんセンターや基幹病院などの中核スタッフとして推薦できるレベルを目指す

§ 副次的なコース

●レジデント2年コース

対象者	新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み（旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み）で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※基本領域専門医：内科専門医、外科専門医
研修目的	・ 消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本的な知識・技能を習得する ・ 専門医取得：日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会専門医、日本カプセル内視鏡学会専門医 ・ 国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者 ・ 臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組む
研修内容	・ 2年間の研修期間の内、主に1年目に他科をローテーションする（12か月以下） ・ ローターションは、病理科・放射線診断科などの診断部門および内科部門が選択可能である ・ 各臓器（食道・胃・大腸）の術前内視鏡検査を実施し、カンファレンスを担当する ・ 合計50例以上のESD術者経験および2-3本の英語論文作成を目指す ・ 検診センターでの高度なスクリーニング消化管内視鏡技術の習得を目指す研修も可能である
研修期間	2年間 ※病院の規定に基づきCCM勤務を行う。
研修の特色	・ 消化器内視鏡を中心に幅広い診療経験を積むことが可能 ・ スーパーエキスパートの検査・治療を数多く見ることができ、直接指導を受けることができる ・ 内視鏡の基礎となる病理科での研修が可能 ・ 国内および国際学会、多くの研究会、JCOGをはじめとする様々な班会議に参加可能 ・ スタッフが定期的に、研究の進捗や学会発表・論文作成をチェック・指導する ・ とても国際的である。年間100人以上の外国人医師が当科を見学・研修しており、カンファレンスも英語で行われる。臨床現場でも英語が常に飛び交っている

レジデントプログラム ■ 内視鏡科（消化管） ■ 消化管・胆膵内視鏡エキスパート

●連携大学院コース（内視鏡 PhD コース）

対象者	新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※基本領域専門医:内科専門医、外科専門医
研修目的	・ 消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本から高度な知識、技能を習得すると同時に、学位取得を目指す ・ 専門医取得：日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会専門医、日本カプセル内視鏡学会専門医 ・ 学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大等） ・ 国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者 ・ 臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組む
研修内容	・ レジデント2年コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラム ・ 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられる ※前半の2年の研修期間は、当該コースの内容に準じる ※後半の2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じる ※がん専門修練医への採用には再度選考試験があり、不採用者は任意研修の立場で大学院に在籍は可能だが、当院からの給与は支給されない
研修期間	4年間 ※病院の規定に基づきCCM勤務を行う
研修の特色	・ 消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本から高度な知識、技能を習得すると同時に、学位取得を目指すコース ・ 国立がん研究センターの診療・研究に基づく、専門医取得・学位取得が可能 ・ スーパーエキスパートの検査・治療を数多く見ることができ、直接指導を受けることができる ・ 内視鏡の基礎となる病理科での研修が可能 ・ 国内および国際学会、多くの研究会、JCOGをはじめとする様々な班会議に参加可能 ・ スタッフが定期的に、研究の進捗や学会発表・論文作成をチェック・指導する ・ とても国際的である。年間100人以上の外国人医師が当科を見学・研修しており、カンファレンスも英語で行われる。臨床現場でも英語が常に飛び交っている

§ その他のコース

●レジデント短期コース

対象者：希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方
期間・研修方法：研修方法：6か月～1年6か月。内視鏡科（消化管）研修
※6か月を超える場合は病院の規定に基づき CCM 研修を行う

■ 消化管・胆膵内視鏡エキスパート

●レジデント2年コース

対象者	新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※基本領域専門医:内科専門医、外科専門医
研修目的	・ 消化管内視鏡科および肝胆膵内科において消化管・胆膵内視鏡の専門的な知識・技能を習得する ・ 国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者 ・ 臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組む
研修内容	・ 消化管内視鏡科を2～3か月（CCMが入った場合には2か月）研修し、その後は消化管内視鏡科および肝胆膵内科を希望の期間で研修する ・ 病理科への短期間ローテーションも可能であるが、消化管内視鏡科および肝胆膵内科で18ヶ月以上の研修を必須とし、両科を少なくとも6ヶ月以上ずつ研修する ・ 消化管内視鏡科では在籍期間に応じて、より多くのESD術者経験および英語論文作成を目指す ・ 肝胆膵内科では胆膵内視鏡の検査・治療が主たる目的の入院患者を担当しながら、検査・治療全体に携わる
研修期間	2年間 ※病院の規定に基づきCCM勤務を行う
研修の特色	・ がんに特化した高度専門医療機関で、消化器に関わる内視鏡診断・治療を網羅した研修を行える ・ 消化管および胆膵のスーパーエキスパートの検査・治療を数多く見ることができ、直接指導を受けることができる ・ 国内および国際学会、多くの研究会、JCOGをはじめとする様々な班会議に参加可能 ・ スタッフが定期的に、研究の進捗や学会発表・論文作成をチェック・指導する ・ レジデント2年コースまたはレジデント短期コースで選択可能

§ その他のコース

●レジデント短期コース

対象者：希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方
期間・研修方法：6か月～1年6か月。内視鏡科（消化管）および肝胆膵内科研修
※6か月を超える場合は病院の規定に基づき CCM 研修を行う

対象者、研修期間、CCM・緩和医療研修、交流研修等 病院全体で定められた基準は16-17ページを参照